



2022.5.16 瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

### ゴールデンウィークを終えて

長いお休みが終わり、久しぶりの幼稚園の状況は予想通りでした。4月入園の年少組さんもせっかく慣れた頃に連休が続くので、当然お家が恋しくなり、9日の月曜日は大変でした。2・3歳児保育も始まったので、こちらも部屋から賑やかな声（お家に帰る〜！）が響いてきます。先生たちは「大丈夫だよ。」と笑顔で声がけを繰り返しています。そして1週間の後半になってくると、「あらっ、泣かないでバスから降りてきた。あらっ、お部屋が静かだわ。」と、どのクラスも落ち着いた時間を過ごせるようになりました。

でも、土・日を挟むとまた振り出しに。こうやって「3歩進んで2歩下がる」を繰り返しながら、元気に笑顔で幼稚園生活を過ごせるように変わっていきます。気長に待っててあげてくださいね。



### 母を鏡として

5月8日は母の日でした。私の母はすい臓がんを患い、大手術の後、抗がん剤治療を続けながら5年間生き延び、19年前に74歳で他界しました。母の日に私は母の大好きだった赤いお花を供えました。

私の母は5人兄弟の末っ子。父とは恋愛で結婚したはずなのに、母は神戸家への不満が多く、嫁姑問題・大勢の小姑の世話で大変だったようです。その上、土木業を営んでいた我が家は冬になると新潟からの出稼ぎの人たちが何十人と押し寄せ、三度の食事の世話で毎日ごった返していました。出稼ぎの人たちは雪国出身で大酒のみが多く、酔っ払いや荒くれ者もいたりして、かなり手こずっていたようです。そういうおじさんたちと下ネタもジョークも母は上手に話を合わせて、いつも笑っていました。

元々楽道家だったのか、神戸家に来てそういう人になっていたのかわかりませんが、母の大きさは並大抵ではなかったと思います。そんな会話を聞きながら育った私ですから、早くからおませさんで、下ネタに顔を赤らめることもなく成長しました。私の大きさをやノー天気なところは母親譲りだと思います。



不思議なことに年齢を重ねると、親そっくりになります。育った環境がその人の一生を左右するので、一緒にいた家族、特に両親の話し方やしぐさまで似てくるのは当然のことでしょう。さて、自分自身を振り返った時、ちゃんとお手本になれていたかどうか不安です。

時々、娘たちが孫を叱る姿を見て、「そんなに怒らなくても・・・」「いや、あれは昔の自分の姿か？」と思うと反省ばかりです。良いところも悪いところも、みんな受け継がれていくんですね。（冷や汗(^\_^)）

### 人間性も世界級

今アメリカで大活躍している大谷翔平選手。彼をプロ野球で通じる偉大な選手に育て上げたのは、花巻東高校野球部の佐々木監督でした。大谷選手が高校1年の時に立てた目標設定シート、マンダラチャートをご存じでしょうか。中心には「ドラ1、8球団」と書かれており、プロ野球選手を目指し様々な目標を立てました。野球に関する能力的なこともありますが、私がすごいなと思ったのは日常の行動やメンタル面についての項目です。

ごみ拾い、道具を大切に扱う、一喜一憂しない、ピンチに強い、仲間を思いやる心等々。グラウンドのごみをさりげなく拾う大谷選手は、野球選手だけでなく人間としても一流だと、世界中から愛され絶賛されています。野球選手である前に人間としても一流になること、それを育てたのは佐々木監督という恩師でした。ちなみに私も大谷選手のまねをして、ごみを拾うようにしています。ごみ拾いは他人が捨てた運を自分の運にするとのこと。最近下ばかり見て歩いている私です。自分自身も「人間性を磨く」を心がけたいと思います。

